



合格体験記



氏名：S.F

[合格した自治体]

(広島県立特別支援学校 (中学部) の知的障害、肢体不自由、病弱部門の英語科で合格)

Q 採用試験に向けて・・・

①いつから勉強しましたか

本格的に筆記試験の勉強をしたのは、3回生の12月からです。それ以前は山村留学・里親活動ボランティアを行ったり、障害児教育の本を読んだり、教員採用試験の概要を調べたり・・・していました。

②どのような教材を使っていましたか

東京アカデミーの教職教養・一般教養の参考書や問題集やノートや、「スーパー過去問ゼミ」という教育法規の参考書や、受験自治体の過去問題集や、「よくわかる特別支援教育」という本や、「実践障害児教育」という発達障害児教育に関する月刊誌や、英語の発音や基本例文集や、大学の英語科目の教科書を使っていました。

③勉強方法

教員採用試験においては、面接など「人間を見られる」試験が多いので、教職ナビの面接練習には可能な限り、受験者や見学者として参加し、「面接ノート」を作成し、自分の教員への思いを高めていきました。ナビの仲間存在はとて大きかったです。筆記試験の勉強法としては、場当たりのではなく、計画的に進めていくことが大切で、教職教養を中心に東アカの参考書や問題集を何回も粘り強くこなした後、一般教養や、専門の勉強を進めました。常に、過去問にかえて確認していました。障害児教育の勉強は趣味に近かったので、自分でどんどん本や新聞を読んでいました。楽しかったです。

④一日何時間勉強しましたか

1日3時間を目標にしていたのですが、アルバイト(高校と塾での労働)を週に5日していたので、思うように進まないこともありましたが、週末や5月の連休には図書館の6階で長時間勉強したり、通学の電車の中で反復学習しました。いずれにせよ、自分のスタイルに持ち込み頑張ってください。

⑤どこの自治体を受けてどのような対策をしましたか

どこの自治体を受けるにしても、面接や集団討論は重要になってくるので、ナビの面接練習や教職教育部の対策講座を受講し、先生やみんなのアドバイスをもらい、「自分の頭で考える」ことを大切にしました。ナビの存在は大きかった。「教員になりたい」気持ちが強ければ、自然と複数の自治体を受験すると思います。

⑥二次対策はどうしていましたか(実技・専門・模擬授業)

二次対策は一次試験が終わった後すぐに教職教育部の先生方とナビのみんなと開始しました。「みんなで渡れば怖くない」ですよ。

⑦あなたにとって教職ナビとはどのようなものですか

教職ナビとは、同じ目標を持った、冷静で人への思いやりのある、高い人間性を持った仲間です。本気で相手のことを考える仲間がおり、活動では楽しいこともあり、学生生活にとって大きなものでした。最初は、自分のことを本気で指摘してくれる先生は「実は嫌」でしたが、今では感謝しています。自分を「変える」ことも大切なんですね。遠い存在であった「特別支援学校の先生」を私に引きつけてくれた存在でもありました

⑧ゼミ(授業)と教員採用試験との兼ね合いはどうしていましたか

教員免許状を中学・高校の英語と社会を取得するので、授業は多く大変でした。ゼミは教授が信用してくれていたのも、ゼミ長でしたが、前期はほとんど出席せず、教員採用試験の勉強や面接練習をしていました。忙しくても、自分のスタイルに持ち込み、やる時は真剣に勉強したり、卒論を書いていました。

⑨バイトやボランティアはどうしていましたか

大学1回生から続けてきたアルバイト(高校と塾の労働)は週に5日行い、生徒との距離感や指導技術など学ぶことは無数にあります。ボランティア(和歌山県における山村留学・里親活動ボランティア)も1回生から続けており、大自然の中での障害児支援の大切さを日々実感し、実践しています。面接練習で話したことのほとんどはそこでの体験です。思い立ったら、実際に行動してみる、自分のスタンスで可能な範囲でやってみる、自分のスタイルに持ち込んでみる、ことが大切ですね。

⑩挫けそうになったときどうしていましたか

周りの友達と話をしてみる。案外、同じようなことを考えていたりします。励まされたり、やる気になったり。自転車旅行や離島に赴いたり、街歩きに出かけてみる。その時間がなければ、別の息抜きをしてみる。しばらく、体と頭を休めてみる。そうしましたらですね、悩んでいたことが嘘のようになくなるかも知れませんよ。ぼちぼち頑張ってください。

⑪大学生生活中にやっておいたらいいこと

やりたいことはなんでもやっておいたほうがいいですね。月並みですが。人が生きている間、その瞬間、瞬間で情熱を注げることが出来て、一生懸命に生きられることほど私は幸せなことはない、と考えています。さて、あなたは今、何に関心がありますか?ひょっとしたら、それが「大学生生活中にやっておいたらいいこと」かもしれませんよ。

Q これからどのような先生になりたいですか

「おっ!あの先生俺のことわかってくれとんのとちゃうか…」、「あの先生いつも私のこと見てくれている」、「あの先生うるさいけど、いつも一緒にトマトの水やりしてくれるな」、「おれがカッとなっているとき先生はほっといてくれたな。実は嬉しかったわ。」「僕、自分でボタンかけられるようになったわ。ワイイ。」そう子どもに思ってもらえるような、希望を言えば、子どもに言ってもらえるような、子ども一人ひとりの個性を見つけ、その個性を活かして、出来ないことをひとつひとつ出来るように、子ども一人ひとりをよく理解した、石川達三の「人間の壁」に出てくるある先生のようにになりたいですね。

Q これから教員採用試験を受ける方へのメッセージ

子どもと共に喜びを共感し、粘り強く子どもが出来ないことを出来るように支援し続ける教員になりましょう!!

その道のりを歩む際には、思い悩むこと、楽しいこと、「いやーや」ってなることがあると思います。でも、「教員になりたい!」と思った瞬間の熱い想いと決定的な出来事を胸に勉強をし、教員採用試験に向けて頑張ってください。勉強しているときに、教員として子どもと過ごしている光景が浮かんでくるか

もしれませんよ。